

標 題	シクラメンの若手生産者の相互研鑽で技術改善に成果
-----	--------------------------

(ダイジェスト)

シクラメン産地を維持・発展するために、出雲地域の意欲ある若手のシクラメン生産者を募り、平成29年から勉強会を開催しています。このたび、令和元年産の栽培や出荷について振り返り、令和2年産へ向けての課題を確認しました。

令和2年産へ向けて、目標とする草姿への仕上げと機能する根の確保を目標として、各生産者が用土やかん水・肥培管理等を見直すこととしています。

出雲地域は、県内で最大のシクラメン産地であり、40代以下の若手生産者や後継者が多いことから、農業技術センター技術普及部と連携し、篤農家の技術継承と生産者同志での研鑽を目的として、平成29年から意欲的な若手生産者を対象に勉強会を開催しています。

今年度は、7名が参加し、「根づくり」をテーマに、月に1回(合計8回)、全戸のほ場を全員で巡回し、意見交換を行う形で行いました。他の生産者のほ場や管理方法を確認し、お互いにアドバイスをしあうことで、各自がシクラメンの生育状況や管理を見直すことに繋がり、目標とするシクラメンの草姿(株サイズ、葉枚数等)に近づいてきました。

このことにより、他県では開花遅延する産地があるなか、計画どおり11月上中旬からの出荷となり、出荷数量は病気の発生等によりやや減少したものの、単価は前年並みか上回った生産者が多く、市場からも信頼できる産地として高い評価を得ることができました。

一方で、テーマとしていた「根づくり」については、根量は確保できてきているものの、確保した根をいかに傷めないかという点が課題となりました。

令和2年産へ向けては、目標とする草姿への仕上げと機能する根の確保を目標として、各生産者が用土やかん水・肥培管理等を見直し、お互いの取り組みについて情報交換していくこととしています。

農業普及部としても、シクラメン生産の安定化と担い手の育成を図るため、農業技術センター技術普及部と連携し、今後も「シクラメン勉強会」の活動を支援していきたいと考えています。



会員間でのほ場巡回の様子



巡回時に根の状況を確認